2026年11月10日

各　位

会社名　　日本ケミコン株式会社
代表者名　　代表取締役社長 今野 健一
(コード番号　6997 東証プライム市場)
問合せ先　　取締役 石井 治
(TEL. 03-5436-7711)

特別損失の計上、2027年３月期第２四半期（中間期）連結業績予想数値と実績値の差異及び通期連結業績予想の修正に関するお知らせ

2027年３月期第２四半期連結会計期間（2026年７月１日～2026年９月30日）において、下記のとおり特別損失を計上するとともに、2026年５月14日に公表した2027年３月期第２四半期（中間期）の連結業績予想数値と、本日公表の実績値に差異が生じましたので下記のとおりお知らせいたします。また、最近の業績動向を踏まえ、2027年３月期の通期連結業績予想を下記のとおり修正いたします。

記

１．特別損失の計上

2026年９月24日に公表しました「シンガポールにおける当社シンガポール子会社に対する判決に関するお知らせ」に関して、シンガポール上訴裁判所に控訴を提起しましたが、シンガポール国際商事裁判所の一審の判決どおりに確定した場合に備え、2027 年３月期第２四半期連結累計期間において当社シンガポール子会社の純資産に相当する金額である20億40百万円を訴訟関連損失として特別損失に計上いたしました。

２．2027年３月期第２四半期（中間期）連結業績予想数値と実績値の差異
（2026年４月１日～2026年９月30日）

	売　上　高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する中間純利益	１株当たり中間純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円　銭
前回発表予想(A)	77,000	3,000	2,000	1,500	53.91
実績値(B)	78,155	3,763	2,779	45	△3.52
増減額(B)－(A)	1,155	763	779	△1,454	―
増減率(%)	1.5	25.5	39.0	△97.0	―
(ご参考)前期中間連結会計期間実績(2026年３月期第２四半期)	64,246	956	779	269	12.63

３．2027 年３月期通期連結業績予想数値の修正（2026 年４月１日～2027 年３月 31 日）

	売　上　高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する当期純利益	１株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円　　銭
前回発表予想（A）	160,000	8,000	6,000	4,000	142.17
今回発表予想（B）	160,000	8,000	6,000	2,000	59.08
増減額（B）－（A）	0	0	0	△2,000	―
増減率（%）	0.0	0.0	0.0	△50.0	―
（ご参考）前期実績（2026 年３月期）	136,821	3,369	2,094	2,367	106.29

差異及び修正の理由

2027 年３月期第２四半期（中間期）の実績値につきましては、ＩＣＴ関連市場及びＡＩサーバー関連市場における生成ＡＩの利用拡大に伴うデータセンターへの大規模投資が続き、電源・通信機器向け需要が拡大しました。また、自動車関連市場ではＡＤ／ＡＤＡＳ（自動運転／先進運転支援システム）の高度化を背景に高電圧・高信頼性部品に対する需要の高まりを背景とし販売が好調に推移したため、売上高、営業利益及び経常利益は予想を上回りました。親会社株主に帰属する中間純利益につきましては、訴訟関連の特別損失を計上したことにより前回発表予想を下回る結果となりました。

通期の連結業績予想につきましては、中東情勢等の地政学リスクから原材料高騰などの影響はあるものの、第３四半期以降もＩＣＴ・ＡＩサーバー関連市場はデータセンター向け投資を背景とした周辺機器部品の需要拡大、自動車関連市場や産業機器関連市場の需要も堅調に推移していることから、売上高、営業利益及び経常利益は当初予想を据え置きます。なお、親会社株主に帰属する当期純利益につきましては、中間期において訴訟関連による特別損失を計上したことから、前回予想を下回る見通しです。

このような状況を勘案し、2026 年５月 14 日に公表しました通期の業績予想を上記のとおり修正いたします。

以　　上